

製品名: PI 3-キナーゼ p110 α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16098**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	110kDa

抗原情報

遺伝子名	PIK3CA
別名	PIK3CA; Phosphatidylinositol 4; 5-bisphosphate 3-kinase catalytic subunit alpha isoform; PI3-kinase subunit alpha; PI3K-alpha; PI3Kalpha; PtdIns-3-kinase subunit alpha; Phosphatidylinositol 4,5-bisphosphate 3-kinase 110 kDa catalytic subunit
遺伝子 ID	5290.0
SwissProt ID	P42336
免疫原	抗血清はヒト PI3 キナーゼ p110 α 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 470-519

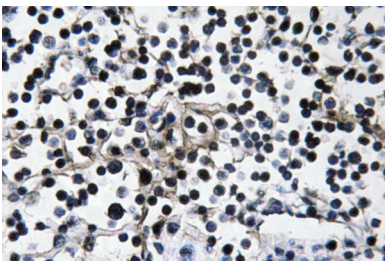
背景

ホスファチジルイノシトール3キナーゼは、85 kDaの調節サブユニットと110 kDaの触媒サブユニットから構成されています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は触媒サブユニットであり、ATPを用いてPtdIns、PtdIns4P、およびPtdIns(4,5)P2をリン酸化します。この遺伝子は発がん性があることが判明しており、子宮頸がんとの関連が示唆されています。この遺伝子の擬似遺伝子は22番染色体上に定義されています。[RefSeq提供、2016年4月]触媒活性: ATP + 1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール4,5-ビスリン酸 = ADP + 1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール3,4,5-トリスリン酸。疾患: PIK3CAの欠陥は乳がんに関連しています[MIM:114480]。疾患: PIK3CAの欠陥は大腸がん(CRC)と関連しています[MIM:114500]。疾患: PIK3CAの欠陥は卵巣がんに関連しています[MIM:167000]。卵巣がんは婦人科悪性腫瘍による死亡の主な原因です。腹腔内への局所領域播種を伴う進行期の症状と、まれに内臓転移を呈することを特徴とします。これらの典型的な特徴は、転帰の主要な決定因子である疾患の生物学的特性と関連しています。疾患: PIK3CAの欠陥は肝細胞癌(HCC)の原因となる可能性があります[MIM:114550]。疾患: エクソン9および20に影響を与えるPI3KCA変異は、性別および組織特異的なパターンを示すため、異なるアミノ酸変異がこの酵素の発癌特性に異なる機能的影響を及ぼす可能性があることが示唆されます。さらに、性的二形性や組織特異的因子が、PI3KCAがんアレルの発現に直接的または間接的に影響を及ぼす可能性がある。機能: PtdIns、PtdIns4P、およびPtdIns(4,5)P2をリン酸化し、特にPtdIns(4,5)P2を優先的にリン酸化する。類似性: PI3/PI4キナーゼファミリーに属する。類似性: C2ドメインを1つ含む。類似性: PI3K/PI4Kドメインを1つ含む。サブユニット: p110(触媒)サブユニットとp85(調節)サブユニットのヘテロ二量体。核抽出物中でIRS1に結合する。RUFY3と相互作用する。

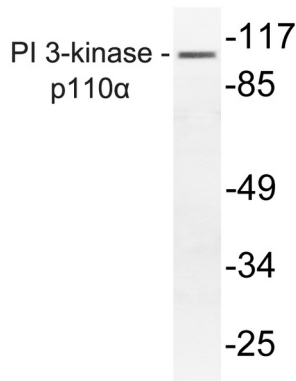
研究分野

イノシトールリン酸代謝、ErbB_HER、ケモカイン、ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系、mTOR、アポトーシス阻害、ミトコンドリアアポトーシス、アポトーシスの概要、VEGF、接着斑、Toll様、Jak_STAT、ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害、T細胞受容体、B細胞抗原、FcイプシロンRI、FcガンマRを介した貪食、白血球の内皮透過性遊走、神経栄養因子、アクチンと細胞骨格の調節、インスリン受容体、プロゲステロンを介した卵母細胞成熟、II型糖尿病、アルドステロンを介したナトリウム再吸収、がんの経路、大腸がん、腎細胞がん、膵臓がん、子宮内膜がん、神経膠腫、前立腺がん;黒色腫;慢性骨髄性白血病;急性骨髄性白血病;小細胞肺がん;非小細胞肺がん;

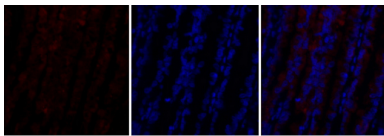
画像データ



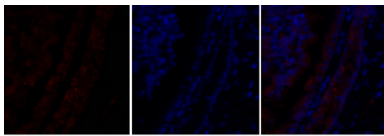
パラフィン包埋ヒトリンパ節組織におけるPI3キナーゼp110 α 抗体の免疫組織化学分析



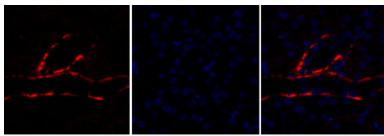
PI 3-キナーゼ p110α 抗体を使用したマウス肝臓溶解液のウエスタンブロット分析。



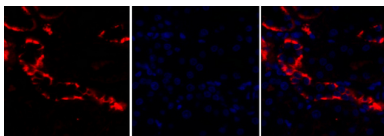
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, PI 3-キナーゼ p110α ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



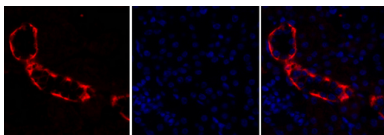
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, PI 3-キナーゼ p110α ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



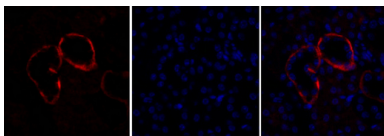
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, PI 3-キナーゼ p110α ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



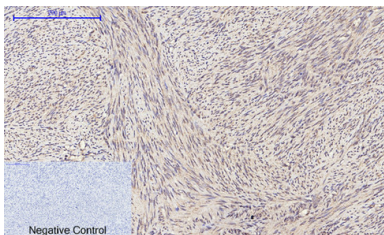
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, PI 3-キナーゼ p110α ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, PI 3-キナーゼ p110α ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, PI 3-キナーゼ p110α ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. PI 3-キナーゼ p110α ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。